

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

— *Aus die Volksdichtung der Monguor* の言語 —

角 道 正 佳

Free variations in a Dialect of the Monguor Language

— The Language of *Aus die Volksdichtung der Monguor* —

KAKUDO Masayoshi

0. はじめに

Schröder (1959, 1970, 1980) (以下VM I, VM II, GRと略記する) は土族語（モンゴル語）の互助方言の下位方言である Xalci gol 方言と Narin guor (Narin gol) 方言の中間の方言の話者たちから民話、神話、格言などを採録したものである。⁽¹⁾ GRは Schröder の遺稿が手書きのままの形で出版されているため、非常に多くのバリエーションがそのままの形で記されている。これについては角道 (1988a) で述べた。一方、VM IとVM IIは、余剰的な要素を取り去って少し整理した形で出版されているため、⁽²⁾ GRに比べてバリエーションは少ないが、やはりかなりの数のバリエーションが確認できる。本稿の目的はこのバリエーションを記すことにある。VM IとVM IIの内容は次のとおりである。

凡例		通し番号 ページ ⁽³⁾	
VM I	Schröder(1959)		
Xoni	羊	1-467	32- 58
MI	マンガス	1-145	80- 86
MII	マンガス	1- 79	88- 90
MIII	マンガス	1- 83	92- 94
MIV	マンガス	1- 71	96- 98
XM	黒馬	1-323	100-112

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

SI	讚美歌 I	1- 18	114
SII	讚美歌 II	1- 15	114-116
B	子牛	1- 99	120-124
SN	鴨のつがい	1- 81	136-140
G	チベット、中国、アムド	1- 78	146-150
A	おうむ、孔雀、かっこう	1- 78	152-158
F	農作業	1- 57	158-162
Sch	火酒	1- 28	166
W	織機	1- 20	168
Br	Brottdämpfen	1- 37	170-172
xue	格言と比喻	1- 28	177-182
VMII	Schröder(1970)		
	神話	1-832	64-110

出典を示すために、上述の凡例記号および数字を用いる。数字はテキストの通し番号を表す。参考として『土漢対照詞彙』の表記を付記する。jighasi ~ jaghasi のような場合を ji/aghasi と略記し、saar ~ szaar のような場合を s(z)aar と略記する。sh は単独の要素なので、muxgi- ~ mushgi- のような場合も mux/shgi- と略記する。⁽⁴⁾ 『土漢対照詞彙』に該当する語がない場合は『土族語詞彙』の表記を [] に入れて記す。どちらにもない場合は Тодаева の語彙集の表記 (T と略記する) をロシア文字で記す。以上のどれにもない場合は、Dictionnaire Monguor-Français (DMF と略記する) の表記を一部簡略化して記す。⁽⁵⁾ Ch. は中国語 (漢語) からの借用語であるが、現地の発音ではなく普通話の発音を拼音字母で記し漢字を添える。Tib. はチベット語からの借用語であるが、アムド方言の形ではなく、対応する文語形を記す。アステリスクは Róna-tas (1966) に依拠した。GR は角道 (1988a) の対応する章番号を表す。

VM I, II はある程度の整理がなされているとはいえ Schröder が音素についてどのような考えを持っていたかは明かでない。実際に音素分析を試みようとすると大変な困難にぶつかる。最小対立がひとつでもあれば別の音素だとするのであれば、hani- (MIV 61) 「閉じる」と xani- (XM 185) 「満足する」とから、/h/, /x/ という別の音素を認める必要がある。しかし一方で halğa (MI 126) ~ xalğa (XM 301) 「手のひら」のように h と x とが自由交替する語もある。同様に šdogu (MII 2) 「薪」と šdogu (XM 316) 「老いた」から /ḡ/ と /g/ とは別の音素でなければならないことになる。しかし、一方で ḡ と g が自由交替している語が多数存在する。例えば、dzirḡuon (VMII 498) ~ dzirguon (VMII 481) 「六」、dziḡadzē (W 9) ~ dzigadzē (VMII 416) 「魚」、ḡadzier (XM 262) ~ gadzier (VMII 336) 「土地」、ḡulḡä- (SN 59) ~ gulḡä- (B 91) 「火をつける」、kuḡuo (Xoni 10) ~ kuguo (VMII 51) 「青い」、silḡä- (XM

264) ~ silga- (XM 267)「振る、垂れる」。これらの語は『土漠対照詞彙』⁽⁶⁾では jirghoon, ji/aghasi, ghajar, ngulge-, kugo, silgoo- と表記されていることから、前者三語は本来 $\bar{g}$ 、後者三語は本来は g であると思われる。すなわち音素 $/\bar{g}/$ には $[\bar{g} \sim g]$ という異音があり、音素 $/g/$ には $[g \sim \bar{g}]$ という異音があることになる。そして $\bar{g} \sim g$ の交替をするものは $/\bar{g}/$ のほうが多い。しかしある特定の $\bar{g}$ なり g が $/\bar{g}/$, $/g/$ のどちらであるかを決定することは VM I, II からできない。母音の長短についても同じような問題がある。šdöl- (G 68)「年をとる」と šdol- (XM 284)「切る」を見ると、母音の長短の弁別があることになるが、後述するように長母音と短母音の間の自由交替は非常に多い。

「母」は amā (XM 37) ~ ama (MIII 56) という交替形からあるのに対し、「口」は ama (Xoni 1) の形でしか現れない。「口」を amā と発音することは、第二音節以下の $a \sim \bar{a}$ の豊富なバリエーションから考えて十分ありそうなことであるが、VM I, II にはこの形は現れない。同様の例を以下に挙げてみる。

『土漠対照詞彙』	VM I, II	VM I, II	『土漠対照詞彙』
家 ger	ger (M I 42) geri (XM 315)	= geri (Xoni 271) geril (Xoni 135)	geril ⁽⁷⁾ 北側
猫 mauxi	mōš (XM145) mōšë (XM144)	= mōšë (xue 15) mošë (XM 264)	muxi 前
骨 yasi	yēsë (xue 12) yäsë (XM 302)	= yäsë (Xoni 268) yäse (MII 36)	yesi, weei, 草 usi
ネズ ⁽⁸⁾ myryo	šgua (B 85) šogë (M I 75)	= šoge (SN 69)	cyre 耳飾り
蓮 Tib. bod mo	wadma (VMII 19) warma (SN 77)	= warma (Xoni 136)	b/warma 秤

以上のリストで=の左右だけを見ると同音異義語のように見えるが、自由交替のようすが異なるので、やはりどこかが違っていると考えざるをえない。しかし、交替形のうちのどれが最も基本的なものであるかを決定する手がかりは、出現頻度に頼らざるをえない。⁽⁹⁾ 次のような場合には「根、台」は「時」と「鷹」とのうちどちらとの同音異義語なのか決定することはできない。

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

根、台 s(z)aar	sär (xue 23)	= sär (MIV 40)	sar	時
	sar (Xoni 182)	= sar (xue 5)	saar	鷹

交替形を持たないために、他の資料では同音異義語でない語のペアが VM I, II では同音異義語になってしまう次のような場合もある。(10)

虎 bas	basë (B 34)	= basë (MI 65)	baasi	糞
搾る saa-	sa- (B 2)	= sa- (Br 20)	sza-	作る
			簡誌 s,dza-	

1. 母音、子音

VM I, II に現れる母音及び子音は次のとおりである。子音のうち、g を ġ, n を ŋ に改める。

母音を補助記号に基づいて分類すると次のようになる。(11)

単母音	長母音	$\overline{V}$	$\bar{i}$		$\bar{e}$			$\bar{a}$	$\bar{o}$		$\bar{u}$	
	短母音	V	i	ē	e	<u>e</u>	ă	a	o	<u>u</u>	u	ü
二重母音	長母音	$i\overline{V}$			iē			iā	iō			
		$u\overline{V}$			uē				uō			
	短母音	iV			ie	<u>ie</u>	iă	ia	io		iu	
		uV		uē	ue	<u>ue</u>	uă	ua	uo			
		üV		üē	üe				üo			
		Vo						ao				
三重母音			uëi, uei, ōuā									

子音を調音点と調音法で分類すると次のようになる。⁽¹²⁾

	両 唇 音	歯 唇 音	歯 音	反 り 舌 音	硬 口 蓋 音	軟 口 蓋 音	口 蓋 垂 音	声 門 音
半 母 音	w				y			
ふ る え 音			r					
流 音			l					
鼻 音	m		n			ŋ		
有 声 摩 擦 音			z					
有 声 破 擦 音			dz	dʒ				
半有 声 破 擦 音			ds					
有 声 閉 鎖 音	b		d			g	ḡ	
無 声 摩 擦 音		f	s	ʃ			x	h
無 声 破 擦 音			ts	tʃ				
無 声 閉 鎖 音	p		t			k		

2. 誤 植

明らかに誤植だと思われるものがいくつかある。正しい形の例と共に記す。

誤 植	正しい形の例	『土漢対照詞彙』
dzāndoḡ (G 21)	duāndoḡ (G 3)	dondog 事情
dzüzw (F 15)	dzüew (Sch 14)	job/d 正しい
furi (SII 8)	funi (XM 67)	煙
guri (Xoni 231)	furi (MIV 16)	furi 下の／へ
Ġuesar (A 63)	ḡuäsar (G 0)	ghoisang チベット
ku (xue 14)	ki (XM 302)	kii 風
maṅgudzé (XM 189)	maṅgudzē (MI 5)	T маḡ5yɗ3e マンガス
mōsē- (VMII 224)	mos- (VMII 525)	mosi- 着る
pupunaḡ (B 36)	pugunaḡ (VM I p.126 註 36)	虻 (アブ)
sdziōdēz (VMII 258)	sdziodzē (Xoni 294)	xjoosi 樹木
sza- (Xoni 330)	sagē- (B 20)	saagi- 擦る

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

é とか è という母音は上述の語に一度現れるだけである。ie も二度しか現れないが、ue~ue のような交替をしている語が三語現れるので、誤植と見なすべきかどうか判断が難しい。他にも補助記号の付け忘れや付け過ぎがあろうが、実際には誤植かどうかの判断は困難である。

3. 自由交替

3. 1. 長母音~短母音 (GR 4. 1, 4. 2)

他の資料から判断して、どちらかが本来の母音であることを示すために矢印を用いる。

ā → a

C _

nādē- (VMII 828)	nadi- (Br 37)	naadi-	遊ぶ
xā- (VMII 514)	xa- (VMII 590)	haa-	守る、保護する
yāla- (XM 56)	yala- (Xoni 399)		どうして

第二音節以下

furā- (xue 14)	fura- (Xoni 260)	furaa-	(姿が) 変わる
halā (M I 129)	hala (XM 40)	T (xana)	皆
līsgā (Xoni 458)	lisga (B 6)	lisgaa	こと
nigāma (xue 17)	nigama (XM 117)	nigaama	一口
-āno (Xoni 377)	-ano (Xoni 144)	T -āny	(分離副動詞)

ā ← a

C _

xāndē (XM 297)	xandē (Xoni 463)	hamdi	いっしょに
----------------	------------------	-------	-------

第二音節以下

amā (XM 37)	ama (MIII 56)	aama	お母さん
dundā (xue 28)	dunda (Sch 6)	dunda	中
ḡudāl (F 3)	ḡudal (B 29)	ghudal	嘘
māndā- (VMII 469)	mānda- (B 37)	manta-	掘る
ṅgumā (xue 4)	ṅguma (xue 20)	nguma	粥 (カユ)
rēkuā (xue 28)	rēkua (xue 10)	Tib. *dka ba	知識
sanā- (xue 20)	sana- (B 53)	sana-	思う
-dā (Xoni 134)	-da (MII 24)	T -да	〜も
-dziā (VMII 42)	-dzia (VMII 39)	T -джа	(終止形過去+客観範疇) ⁽¹³⁾
-lā (VMII 538)	-la (VMII 554)		(時を表す)

iā ← ia

# C _			
dziārin (XM 241)	dziarin (VMII 29)	jarin	半分
ō → o			
# C _			
dō (Br 33)	do (VMII 628)	dau	歌
dōro (VMII 211)	doro (SN 23)	dooro	下
dōruo (Sch 9)	doruo (M I 108)	dooro	下
fōdē (VMII 145)	fodē (VMII 131)	foodi	星
mō (XM 38)	mo (VMII 577)	mau	悪い
sō- (XM 104)	so- (F 53)	sau-	座る
tō- (VMII 283)	to- (XM 271)	tau-	追う
tōla- (VMII 766)	tola- (VMII 757)	taula-	つなぐ
xōdzēn (VMII 64)	xodzē (XM 296)	hoos/zin	乾いた
yōšē (Xoni 9)	yošē (Xoni 433)	Ch. yàoshi (鑰匙)	鍵
# C C _			
šdōli- (xue 25)	šdoli- (xue 25)	shdooli-	年をとる
ō → u			
# C _			
mōr (MIII 23)	mur (MII 3)	moor	道
sōla (Xoni 220)	sula (XM 146)	suul	尾
ō → i			
# C _			
tōšdan (Xoni 183)	tišē (XM 70)	tiixi	上を
ō → uo			
第二音節以下			
sirō (Xoni 129)	siruo (VMII 540)	xiroo	午後
uō → uo			
第二音節以下			
mruguō (M I 29)	murguo (xue 16)	morgoo	必要ない
iō → io			
# C C _			
sdziōdzē (MII 68)	sdziodzē (Xoni 294)	xjoosi	樹木
第二音節以下			
-dziō (VMII 828)	-dzio (M I 11)		(文末助詞) ⁽¹⁴⁾

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

iō → üo

C _

dziō- (A 10)

dziüo- (xue 13)

DMF dziō-

身につける

ō ← o

C _

dōluon (MIII 15)

doluon (XM 32)

doloon

七

mōšë (xue 15)

mošë (XM 264)

muxi

前

mōšgē (A 30)

mošgē- (A 43)

mux/shgi-

曲げる

tōḡ (VMII 513)

toḡ (Xoni 212)

[tɔḡ]

稲妻

tōronj (VMII 32)

toronj (VMII 23)

tu/orong

初め

wōli- (MIII 82)

wol- (M I 136)

ba/oli-

～になる

xōlag- (VMII 556)

xolaḡ- (VMII 542)

hulgha-

盗む

C C _

šdōro (VMII 70)

šdoro (Xoni 447)

tudor

中

第二音節以下

amdō (A 72)

amdo (G 0)

Tib.

a mdo

アムド(地名)

-enō (XM 288)

-eno (XM 19)

T

(-āny)

(分離副動詞)

uō ← uo

C _

xuōluō- (VMII 815)

xuolō- (VMII 814)

huloo-

結ぶ

第二音節以下

muonuō (M I 39)

muonuo (M I 19)

Tib.

mub mo

夜

ē → e

C _

gē- (MII 60)

ge- (XM 115)

gee-

置く

pēh (MII 56)

peh (MII 60)

ふん! ⁽¹⁵⁾

sēr (MIII 11)

ser (MIV 53)

seer

お金

C C _

šbē (A 66)

šbe (VMII 741)

T

cōē

裸麦

ē → ie

C _

gē- (MII 60)

gie- (XM 105)

gee-

置く

ē ← e

C _

gēril (B 84)	geril (Xoni 195)	geril	北側
# C C _			
šgē (VMII 285)	šge (Xoni 96)	shge	大きい
xǣlie- (VMII 78)	xǣlie- (MIV 53)	hgile-	求める
ē ← ë			
第二音節以下			
mošgē- (A 43)	mošgē- (A 12)	mux/shgi-	曲げる
ē ← ie			
# C C _			
ndērie (VMII 445)	ndiere (VMII 547)	ndiree	ここ
sgē- (XM 4)	sgie- (Xoni 293)	sge-	見る
iē ← ie			
# C C _			
sgie- (VMII 571)	sgie- (Xoni 293)	sge-	見る
ū → u			
第二音節以下			
ngurū- (W 6)	nguru- (Sch 13)	nguroo-	転がす
ū → uo			
第二音節以下			
ngurū- (W 6)	nguruo- (MII 36)	ngguroo-	転がす
ū ← u			
第二音節以下			
-gūi (M I 26)	-gui (M I 70)		(形動詞未来+)
ō ← u			
# C _			
tōda- (M I 6)	tuda- (MII 64)	tudaa-	逃げる
xōluo- (Xoni 162)	xuluo- (Xoni 340)	huloo-	結ぶ
yōro (XM 266)	yuro (xue 26)	yoro	声
uō ← u			
# C _			
xuōluo- (VMII 815)	xuluo- (Xoni 340)	huloo-	結ぶ
ii ← i			
# C _			
līsgā (Xoni 458)	lisga (B 6)	lisgaa	こと

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

以上をまとめると次のようになる。(16)

本来は長母音	ā	ō	ō	ō	ō	uō	iō	iō	ē	ē	ū	ū	
短母音化	a	o	u	i	uo	uo	io	üo	e	ie	u	uo	
第一音節													
# C _	3	10	2	1			1		3	1			
# C C _		1					1		1				
第二音節以下													
# X V Y _ Z	5	1			1	1	1				1	1	
本来は短母音	a	ia	o			uo			e	ë	ie	ie	i
長母音化	ā	iā	ō			uō			ē	ē	ē	iē	ī
第一音節													
# C _	1	1	7			1			1			3	1
# C C _			1						2		2	1	
第二音節以下													
# X V Y _ Z	10		2			1			1		1		

数字は該当する例の数を表す。

3. 2. 母音交替

ä ~ a (多くの場合、前後いずれかに舌尖音がある。)

dsändän (Xoni 324)	dzändän (Xoni 305)	zandan	白檀
lāntsioḡ (B 38)	lantsioḡ (VMII 446)	Tib. lan gyog	業 (ゴウ)
mānda- (B 37)	manda- (M I 142)	manta-	掘る
paḡdä- (xue 27)	paḡda- (SN 34)	pagda-	満ちる
sāmba (VMII 15)	samba (xue 22)	samba	種類
sār (xue 23)	sar (Xoni 182)	s(z)ar	根、台
tašdiä (xue 19)	tašdia (XM 302)	Tib. thal skya	死体を燃やした灰
yäyi (XM 43)	yayi (M I 132)	yayi	炒麦
-dzän (XM 303)	-dzan (Xoni 361)	T -caH	(形動詞過去)

ä → e

mānda- (B 37)	menda- (VMII 470)	manta-	掘る
sadziḡä (XM 5)	sadziḡe (Xoni 391)	saji/aghai	カササギ
sārgu (Xoni 197)	sergu (Xoni 169)	sargu	太陽側
tä- (Xoni 156)	te- (Xoni 224)	tai-	置く
yäsē (XM 302)	yēsē (xue 12)	yasi	骨

ä ~ ë

kudä (XM 271)	kudë (M I 20)	kudu	家
---------------	---------------	------	---

ä ~ e

särgu (Xoni 197)	sergu (Xoni 269)	sargu	太陽側
------------------	------------------	-------	-----

ä ~ ua

gändzë (Xoni 303)	guandzë (MIII 12)	ganji	(助数詞) 本
-------------------	-------------------	-------	---------

ä ~ uä

fän (VMII 62)	fuän (xue 10)	fa/on	年
---------------	---------------	-------	---

uä ~ ue

ḡüäsarj (G 0)	ḡüesarj (A 63)	ghoisang	チベット
---------------	----------------	----------	------

ia ~ ie

ādzia (M I 21)	ādzie (MIV 26)	aaja	兄、～さん
tiag (VMII 816)	tieg (VMII 788)	DMF tiaḡ	棒
tsiadë- (XM 107)	tsiedë- (M I 30)	qadi-	満腹する

iä ~ ia

dziärin (XM 241)	dziarin (VMII 29)	jarin	半分
tsiädë- (XM 101)	tsiadë- (XM 107)	qadi-	満腹する

iä ~ ie

sdziäwa (B 98)	sdziewa (XM 304)		生まれ変わる
tsiädë- (XM 101)	tsiedë- (M I 30)	qadi-	満腹する

a ~ o

malarj (XM 43)	malorj (XM 65)	malang	明日
sguōrla- (VMII 185)	sguōrlo- (VMII 215)	sgorlo-	周りを回る

a ~ uo

dziolan (B 18)	dzioluon (xue 8)	joolon	軟らかい
----------------	------------------	--------	------

a ~ ë

adalḡa- (MII 21)	adëlḡa- (MII 65)	idaalgha-	痛める
ḡurada (MII 43)	ḡuradë (XM 96)	ghuraanda	三番目
tsina (MIII 74)	tsinë (M I 18)	qinu	おまえの
yida- (MII 52)	yidë- (MIII 20)	i/yadaa-	疲れる

a ~ ie

danla- (MIII 81)	danlie- (SN 28)	danla-	～になる
nasë (XM 32)	niesë (SN 28)	nasi	年齢、一生

i ~ a

土族語 (モンゴル語) の一方言の自由交替

suli (A 28)	sula (XM 146)	suul	尾
i ~ e (多くは舌尖音の直後)			
bieri (XM 120)	biere (XM 219)	b/yeeri	妻
dišēdi (Xoni 451)	dišēde (MIII 28)	diixidu	詳しく
dieli (SN 41)	diele (XM 318)	deel	服
tari- (VMII 794)	tare- (VMII 796)	T tapi-	植える
tigi (VMII 84)	tige (MIV 65)	tigii	~のような
yili (XM 310)	yile (MIV 17)	ili	全部
-ri (Xoni 150)	-re (M I 104)	T -pa	(位格) ⁽¹⁷⁾
e ~ e			
sergu (SN 9)	sergu (Xoni 269)	sargu	太陽側
te- (Xoni 224)	te- (VMII 719)	tai-	置く
i ~ u			
wāngi- (Xoni 151)	wāngu- (Xoni 159)	Ch. wāngei (彎給)	回す
ë ~ i (歯音 r, l, d, n の直後)			
dielë (XM 318)	dieli (SN 41)	deel	服
dielë- (Sch 7)	dieli- (Br 9)	deeli-	溢れる
dišēdë (B 24)	dišēdi (Xoni 451)	diixidu	詳しく
dölë- (XM 258)	döli- (XM 281)	dooli-	なめる
furë (Xoni 106)	furi (MIV 16)	furi	下の
korë (VMII 705)	kori (VMII 692)	koor	粒
madë (xue 17)	madi (VMII 15)	madu	~のように
munë (M I 23)	muni (M I 25)	T myhe	私の
nādë- (VMII 828)	nadi- (Br 37)	naadi-	遊ぶ
tsinë (M I 18)	tsini (MIV 51)	qinu	おまえの
xarël- (VMII 545)	xaril- (Xoni 315)	(hari-)	返事をする
-në (XM 283)	-ni (Xoni 447)	T -he	(属格、対格)
ë ~ e			
anë (XM 231)	ane (M I 115)	aane/a	お母さん
derë (MII 3)	dere (M I 130)	dire	上
dëre (MII 62)	dere (M I 130)	dire	上
dielž (VMII 515)	diele (XM 318)	deel	服
gēdzë (XM 160)	gēdze (XM 161)	gai/izi	カラシ菜
mëgän (XM 209)	megän (M I 5)	mugen	婆さん

ndëra- (XM 257)	ndera- (M I 99)	ntiraa-	寝る
ndoḡë (VMII 114)	ndoḡe (VMII 117)	ndog	顔 (色)
ndziesë (VMII 754)	ndziese (VMII 784)	njasi	鋤 (スキ)
rë- (XM 43)	re- (M I 31)	(i)re-	来る
rëduombën (M I 144)	rëduomben (M I 143) Tib.	rdo 'bum	墓の上に置く魔除けの石
rëdzianaḡ (G 5)	redzianaḡ (G 0)	rjanag	北京
rëgu- (Xoni 144)	regu- (S I 10)	(u)rgu-	担ぐ
sënardzi (VMII 755)	senardzi (VMII 812) Tib.	sna +	鼻輪
siedzë (XM 186)	siedze (XM 205)	xeesi	小便
šdzën (XM 193)	šdzen (VMII 306)	s(h)zin	丸
šënalḡa (VMII 286)	šenalga (M I 139)		悲しみ
šëxua (XM 38)	šexua (Xoni 246)		正直に
tagë- (Xoni 251)	tage- (M I 130)	taagi-	踏む
tamëngë (XM 249)	tamengë (XM 250)		これほどの
tawën (Xoni 434)	tawen (Xoni 438)	taawun	五
tielgë- (Xoni 379)	tielge- (S I 5)	tai- 使役	解放する、緩める
tiengër (VMII 28)	tienger (XM 93)	tingere	天
tiewšën (SN 13)	tiewšën (Xoni 199)	teb/xjin	平らな
yandë (M I 22)	yande (M I 88)		なぜ
yilë (XM 294)	yile (MIV 17)	ili	全部
-lagë (XM 323)	-lage (S I 11)	T -лахге	～させろ
ë ~ ie			
dënderie (XM 212)	dienderie (XM 198)	denderee	頭がくらくらする
dëndzia (VMII 756)	diendzia (VMII 813)		軛 (クビキ)
ë ~ o			
darsë (VMII 829)	darso (Xoni 455)	[darsu:]	習慣
ë ~ u			
urës- (XM 186)	urus- (B 52)	urosi-	漏れる
xarangë (VMII 4)	xarangu (XM 153)	harangu	暗い
-dë (Xoni 382)	-du (SN 37)	T -де	(与位格) ⁽¹⁷⁾
i ~ ie			
bi (MII 40)	bie (XM 172)	bii	(禁止)
dilie- (A 44)	dielie- (A 13)		うなずく
pudzi- (VMII 51)	pudzie- (SII 2)	pudee-	くすぶる

土族語 (モンゴル語) の一方言の自由交替

saṅrēdzi (xue 2)	saṅrēdzie (VMII 301)	sangr/xji	仏
sdzili- (Xoni 116)	sdzilie- (Xoni 110)	Tib. *sgrel-	生じる
šdimie (Br 20)	šdiemie (M I 30)	T шдime	饅頭
tidzi- (XIV 7)	tidzie- (XM 2)	tijee-	飼う、養う
tsidziḡlie- (Sch 4)	tsidzieḡlie- (XM 166)	qijigle-	花が咲く
tsini (MIV 51)	tsieni (MIV 57)	qinu	おまえの／を
ie ~ e			
gie- (XM 100)	ge- (XM 115)	gee-	置く
sgie- (Xoni 293)	sge- (XM 5)	sge-	見る
io ~ üo			
dziolḡuo- (M I 135)	dziolḡuo- (VMII 781) DMF	dziō- 使役	身につけさせる
ntsiodluo- (XM 93)	tsüodlo- (VMII 167)	nqorlo-	供える
ü ~ iu			
dzür (xue 28)	dziur (XM 150)	(r/u) juur	先
o ~ u			
morguo (VMII 62)	murguo (xue 16)	murgoo	必要ない
torḡuo (VMII 15)	turoḡuo (xue 13)	torghu	絹
toru (A 76)	turo (VMII 751)		頭
o ~ u			
toru (A 76)	turu (VMII 55)		頭
u ~ u			
toru (A 76)	turu (VMII 55)		頭
uo ~ o (『土漠対照詞彙』で au に対応するのは全くない。)			
doruo (M I 108)	doro (SN 23)	dooro	下
dōruo (Sch 9)	dōro (VMII 211)	dooro	下
dziolḡuo- (VMII 781)	dziolḡo- (VMII 755) DMF	dziō- 使役	身につけさせる
ḡuoruo (VMII 651)	ḡuoro (VMII 653)	gooro	他の
kuorē (VMII 652)	korē (VMII 705)	koor	粒
luoš- (B 29)	loš- (XM 99)	losi-	飢える
luosuo (VMII 64)	luoso (VMII 152)	looso	面倒な
nuor (XM 104)	nor (XM 259)	noor	眠り
puosḡuo- (Xoni 220)	posḡuo- (Br 7)	posgho-, bos(il)gha-	建てる
šdodluo- (F 8)	šdodlo- (VMII 181) Tib.	stod la	供える

šduod (Xoni 38)	šdodë (A 63)	Tib.	stod	高地
xōluo- (Xoni 162)	xōlo- (XM 296)		huloo-	結ぶ
xuodzën (XM 299)	xodzë (XM 296)		hoos/zin	乾いた
uo ~ u				
dsuoxuo (M I 103)	dzuḡuo (XM 280)		zauha, zooha	竈 (カマド)
luotsi (VMII 868)	lutsi (M I 44)	Ch.	lùzhóu (轆軸)	車軸
nukuo (M I 142)	nuku (XM 262)		nu/oko	穴
ṅguroo- (MII 36)	ṅguro- (Sch 13)		ngguroo-	転がす
tarḡuon (MIV 29)	tarḡun (MII 17)		targhun	太った
-guo (VMII 748)	-gu (Xoni 39)	T	-ry	(形動詞未来)
uo ~ a				
uruo- (Xoni 208)	ura- (VMII 250)		uro-	降る
ua ~ uo				
kual- (VMII 756)	kuol- (VMII 782)		koli-	つなぐ
e ~ e				
sergu (SN 9)	sergu (Xoni 270)		sargu	太陽側
e ~ ē				
belie- (A 16)	bēlie- (A 34)			用意する
ē ~ iē				
sgē- (XM 4)	sgiē- (VMII 606)		sge-	見る
ie ~ ie (ieは次の二語のみ現れる。)				
furie (VMII 633)	furie (F 8)		furee	種
tiengër (VMII 29)	tinengër (VMII 28)		tinggere	天
üē ~ üe				
dzüew (Sch 4)	dzüew (Sch 14)		job/d	正しい
ue ~ ue				
solḡue (Xoni 439)	solgue (VMII 467)		solghoi	左
tolḡue (M I 110)	tolḡue (A 4)		tolghoi	頭
xolḡue (VMII 542)	xolḡue (VMII 556)		hulghai	泥棒
uei ~ uē				
kueidien (VMII 195)	kuēdien (VMII 43)		kuiden	寒い
guei (MII 12)	guē (VMII 354)		gui	ない (主観範疇) ⁽¹³⁾

土族語 (モンゴル語) の一方言の自由交替

3. 3. 子音交替 (GR 6. 1)

 $\bar{g} \sim g$ (他の資料では $\bar{g}$ の語)

dzir $\bar{g}$ uon (VMII 498)	dzirguon (VMII 481)	jirghoon	六
dzi $\bar{g}$ adzë (W 9)	dzigadzë (VMII 416)	ji/aghasi	魚
$\bar{g}$ adzier (XM 262)	gadzier (VMII 336)	ghajar	土地
$\bar{g}$ ari- (XM 153)	gari- (VMII 189)	ghari-	出る
$\bar{g}$ uäsaj (G 0)	guäsaj (G 11)	ghoisang	チベット
$\bar{g}$ udal (Br 29)	gudal (xue 14)	ghudal	嘘
$\bar{g}$ urada (MII 43)	gurada (XM 108)	ghuraanda	三番目
$\bar{g}$ urala (MII 70)	gurala (MIII 60)	ghuraanla	三人とも
$\bar{g}$ uran (MI 141)	guran (VMII 225)	ghuran	三
log $\bar{g}$ (Xoni 194)	log (VMII 602)	log	方法
ŋ $\bar{g}$ ua- (MI 125)	ŋgua- (XM 134)	nghua-	洗う
ro $\bar{g}$ (Xoni 292)	rog (VMII 468)	r/x/jog	方向
šēnal $\bar{g}$ a (VMII 286)	šenalga (MI 139)		悲しみ
sol $\bar{g}$ ue (Xoni 439)	solgue (VMII 467)	solghoi	左
šdo $\bar{g}$ o- (MII 54)	šdogo- (MI 119)	shdogho-	刺す
tia $\bar{g}$ (B 15)	tiag (VMII 816)	DMF tia $\bar{g}$	棒
tol $\bar{g}$ ue (MI 110)	tolgue (VMII 13)	tolghoi	頭
tsi $\bar{g}$ ara- (XM 117)	tsigara- (XM 285)	T $\bar{c}$ i $\bar{g}$ apā-	叫ぶ

(他の資料では g の語)

$\bar{g}$ ul $\bar{g}$ ä- (SN 59)	gul $\bar{g}$ ä- (B 91)	ngulge-	火をつける
ku $\bar{g}$ uo (Xoni 10)	kuguo (VMII 51)	kugo	青い
sil $\bar{g}$ a- (XM 264)	silga- (XM 267)	silgoo-	振る、垂れる
- $\bar{g}$ uo (VMII 760)	-guo (VMII 770)	T -ry	(形動詞未来)

(他の資料で $\bar{g}$ か g か不明な語)

$\bar{g}$ adu (XM 295)	gadu (XM 77)	Tib. gcen	友達、兄弟
$\bar{g}$ luyi (VMII 558)	gluyi (VMII 561)	Tib. klu	龍、ナーガ
lašdzē $\bar{g}$ (Xoni 377)	lašdzēg (Xoni 396)	DMF lardza	麝香
pa $\bar{g}$ - (F 2)	pag- (Xoni 4)		建てる
sēno $\bar{g}$ der (VMII 288)	sēnogder (VMII 291)	Tib. sngags gter	宝瓶

 $\bar{g} \sim x$

dzuguo (XM 280)	dsuoxuo (M I 103)		zauha, zooha	竈 (カマド)
gueluo (MIV 2)	xueluo (XM I)		ghoilo	二人とも
gušë (A 22)	xušë (A 5)		hoj/xi	くちばし
tuğuo (Br 25)	txuo (XM 279)		tughoo	鍋
h ~ x				
halğa (M I 126)	xalğa (XM 301)		halgha	手のひら
höl- (Xoni 216)	xöle- (VMII 416)		hauli-	走る
ŋ ~ n				
duŋda (Xoni 153)	dunda (Sch 76)		dunda	中
miengu (VMII 765)	miengu (VMII 764)		mengu	銀
monğuol (Br 33)	monğuol (XM 323)		mongghol	モンゴル
taŋdë (Br 25)	tandë (B 31)	Tib.	thang	平原に
taroŋ (Xoni 296)	turon (VMII 703)		tu/orong	最初、頭
yangdzila- (MIV 49)	yandzila- (MIV 32)		yangjila-	お願いする
-ŋgë (M I 1)	-ngë (XM 153)	T	-hre	(単数) ⁽¹⁸⁾
ŋ ~ ŋg				
paŋ (MII 78)	paŋg (XM 252)		pang	家畜小屋
b ~ w				
aba (MII 77)	awa (G 4)		aaba	父
b ~ p				
buosğuo- (SN 20)	puosğuo- (XM 97)		posgho-, bos(il)ghaa-	建てる
š ~ w				
lašdzi (VMII 237)	lawdzi (VMII 678)	T	лавчи	葉
dz ~ ds				
dzāndan (Xoni 305)	dsāndān (Xoni 324)		zandan	白檀
dzuguo (XM 280)	dsuoxuo (M I 103)		zauha, zooha	竈 (カマド)
dz ~ ts				
udzi- (MII 18)	utsi- (XM 196)		uqi-	飲む ⁽¹⁹⁾
dz ~ z				
baŋdzë (XM 115)	baŋzë (A 26)			翼
dziendzia (VMII 765)	diendzia (VMII 813)			軛 (クビキ)
dz ~ s				
fdzaŋ (S I 3)	fsaŋ (Xoni 344)	Tib.	bsangs	煙

土族語 (モンゴル語) の一方言の自由交替

tödžë (XM 294)	tuōsë (XM287)	toosi	油
dz ~ d			
pudzie- (SII 2)	pudie- (F 23)	pudee-	くすぶる
tašdzia (XM 300)	tašdia (XM 302)	Tib. thal kya	死体を燃やした灰
dz ~ sž			
dzəntsien (G 47)	sžəntien (G 40)	Tib. rten 'jin	憐れみ深い
d ~ r			
wadma (VMII 19)	warma (SN 77)	Tib. bod mo	蓮
s ~ š			
luos- (MIII 43)	luoš- (B 29)	losi-	腹がへる
sbe (VMII 735)	šbe (VMII 741)	T c6ē	裸麦
sdaḡu (XM 99)	šdaḡu (XM 98)	shdaho	柴
sěma (VMII 318)	šěma (VMII 321)	Tib. smad	低地
sěmu- (XM 226)	šěmu- (XM 223)	x/shimu-	吸う
sgē- (XM 4)	šgē- (VMII 129)	sge-	見る
l ~ r			
silḡa- (XM 264)	sirgo- (Xoni 219)	xil/rgoo- ⁽²⁰⁾	振る、垂れる

3. 4. 母音 ~ 子音

u ~ g

uluyi (VMII 81)	gluyi (VMII 561)	Tib. klu	龍、ナーガ
-----------------	------------------	----------	-------

3. 5. 語頭母音 (i,u) の有無

idie- (M I 15)	die- (M I 156)	(i) de-	食べる
idiesë (XM 144)	diešë (XM 100)	(i) dexi	食べ物
ugua (XM 224)	gua (MIII 69)	gua	いない (客観範疇) ⁽¹³⁾
uguei (XM 73)	guei (MII 12)	gui	ない (主観範疇) ⁽¹³⁾
uḡuo- (XM 7)	ḡuo- (MII 48)	ugho-	与える
uluosë (Xoni 380)	luosë (Xoni 107)	losi	麻

3. 6. 語末母音の有無 (l, r, s, š, d の後) (GR 7. 4)

l + ë, e, i, a

adalë (B 22)	adal (G 27)	aadal	生活
barġalë (Xoni 380)	barġal (Xoni 148)	bargha ⁽²¹⁾	畏
dielë (VMII 515)	diel (MII 45)	deel	服
diele (XM 318)			
dieli (SN 41)	—		
ġale (SN 59)	ġal (MIII 13)	ghal	火
ġali (XM 146)			
ġala (XM 159)			
ġuoli (Xoni 243)	ġuol (MII 74)	ghol	谷
kuali (M I 108)	kual (M I 110)	kol	足
kuala (Xoni 221)			
Monġuoli (xue 1)	Monġuol (Br 33)	mongghol	モンゴル
noġdzili (Xoni 211)	noġdzil (Xoni 206)	nogxjil	雷雨
sgila (MII 35)	sgil (VMII 599)	sgil	心
suli (A 28)	sul (A 14)	suul	尾
sula (XM 146)			

r + ë, e, i, a

funirë (xue 16)	funir (xue 13)	funir	香り
gadzierë (VMII 292)	gadzier (VMII 336)	ghajar	土地
ġari (MII 57)	ġar (Xoni 378)	ghar	手
ġuori (SN45)	ġuor (xue 28)	ghoor	二
ġuora (XM 295)			
niure (XM 134)	niur (Xoni 286)	nu/iur	顔
niuri (XM 137)			
niura (MII 36)			
riyäre (VMII 205)	riyär (VMII 204)	Tib. dbyar	夏
riyäri (VMII 227)			
sdziure (XM 161)	sdziur (MII 74)	xjuur	底、根
sënoġderë (VMII 304)	sënoġder (VMII 228)	Tib. sngags gter	宝瓶
sëre (Xoni 143)	sër (MIII 11)	seer	お金
sëri (Xoni 140)			

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

tiengerë (XM 164)	tienger (XM 93)	tingere	天
tiengere (VMII 271)			
xǵuore (VMII 203)	xǵuor (VMII 201)	hughor	短い
s + ë			
lusë (MIW 16)	luš (Xoni 107)	lus	国
š + ë			
mōšë (XM 144)	mōš (XM 145)	mauxi	猫
d + ë			
šduodë (Xoni 37)	šduod (Xoni 37)	Tib. stod	高地
smadë (Xoni 59)	smad (A 52)	Tib. smad	低地

3. 7. 語中母音の有無 (GR 7. 2)

第一音節

sēnardzi (VMII 755)	snardzi (VMII 764)	Tib. sna+	鼻輪
senardzi (VMII 812)			
tuǵuo (Br 25)	txuo (XM 279)	tughoo	鍋

第二音節 (r と g/ǵ, r と s の間)

kuregu- (XM 43)	kurgu- (XM 44)	kurgu-	焼く
turoǵuo (xue 13)	torǵuo (VMII 15)	torghu	絹
urës- (XM 163)	ursë- (Xoni 359)	urosi-	漏る、流れる
urus- (B 52)			

3. 8. 語頭子音の有無 (GR 6. 2. 2)

子音の前

ǵdžawa (SN 31)	džawa (XM 28)	Tib. bza ba, gza	カップル
ndaš- (B 43)	daš- (B 29)	udasi-	飲む
ndëra- (XM 257)	dëra- (XM 156)	ntiraa-	寝る
ndërie (VNII 445)	derie (VMII 822)	udiree	ここ
ndiere (VMII 547)			
ŋgombō (VMII 73)	guombo (VMII 614)	Tib. mgon po	保護者 ⁽²²⁾
ŋkāmbo (VMII 316)	kāmba (Xoni 198)	kamba	蓬 (ヨモギ)
ntsiodluo- (XM 93)	tsüodlo- (VMII 167)	nqorlo-	供える

母音の前

wu- (B 43)	u- (B 17)	(uqi-)	飲む ⁽¹⁹⁾
yid- (XM 282)	id- (XM 257)	i/udi-	痛む
yima (Xoni 257)	ima (XM 276)	imaa	山羊

3. 9. 語中子音の有無

ḡuranda (VMII 25)	ḡurada (VMII 30)	ghuraanda	三番目
lhamo (Xoni 317)	lamō (VMII 441)	Tib. lha mo	提婆
sdzilḡa- (MIII 70)	silḡa- (XM 310)	xji- 使役	行かせる

3. 10. 語末子音の有無 (GR 6. 2. 2)

geril (Xoni 195)	geri (Xoni 271)	geri	北側
lašdzëḡ (Xoni 78)	lašdzë (xue 16)	Tib. gla rtsi	麝香 (ジャコウ)
lašdzëḡ (Xoni 396)			
guorden (VMII 821)	guordë (MIV 43)	ghordin	速い

3. 11. 語頭音節の有無

riyärë (VMII 205)	yäri (xue 17)	Tib. dbyar	夏
riyäri (VMII 227)			
riyar (VMII 204)			

4. 二箇所以上に違いがある語

dzāndan (Xoni 305) ~ dsāndān (Xoni 324) (zandan) 「白檀」, dsuoxuo (MI 103) ~ dzuḡuo (XM 280) (zauha, zooha) 「竈 (カマド)」, guduoli- (MIV 45) ~ guodalë- (MIV 37) (ghudali-) 「動く」, nādë- (VMII 828) ~ nadi- (Br 37) (naadi-) 「遊ぶ」, simu- (XM 184) ~ šëmu- (XM 223) ~ sëmu- (XM 226) (x/shimu-) 「吸う」, šënalḡa (VMII 286) šenalga (MI 139) 「悲しみ」, šënie- (MI 137) ~ sinie- (XM 312) (xinee-) 「笑う」, šgua (SN 10) ~ šogë (MI 75) 「ネズ」, tiaḡda- (B 15) ~ tiogda- (VMII 696) 「棒で打つ」, tōdzë (XM 294) ~ tuōsë (XM 287) (toosi) 「油」, tōrḡuo (VMII 15) ~ turoḡuo (xue 13) (torghu) 「絹」, tuḡuo (Br 25) ~ txuo (XM 279) (tughoo) 「鍋」, xori (MI 121) ~ xurë (Xoni 438) (hu/ori) 「指」

5. 三通り以上のバリエーションを有する語

derē(MII 3)~dēre(MII 62)~dere(MI 130)(dire)「上」, dielē(XM 318)~dieli(SN 41)~diele(XM 318)~diel(MII 45)(deel)「服」, dēndzia(VMII 756)~diendzia(VMII 813)~dziendzia(VMII 765)「軛(クビキ)」, dōro(VMII 211)~doro(SN 23)~dōruo(Sch 9)~doruo(MI 108)(dooro)「下」, dzilōuān(xue 6)~dziolan(B 18)~dzioluon(xue 7)~dziolon᠓(XM 291)(joolon)「軟らかい」, dziolḡuo-(MI 135)~dziolḡo-(VMII 755)~dziolḡuo-(VMII 781)「身につけさせる」, gēgien(VMII 158)~gēgen(SN 35)~gegien(VMII 164)(gigēen)「明るい」, ge-(XM 115)~gē-(VMII 503)~gie-(XM 100)(gee-)「置く」, gōrdēn(VMII 671)~guorden(VMII 821)~guordē(VMII 821)~guord(MIV 43)~ḡurdē(Xoni 224)(ghordin)「速い」, xuōluo-(VMII 815)~xuolō-(VMII 814)~xōluo-(Xoni 162)~xōlo-(XM 296)~xuluo-(Xoni 340)(huloo-)「結ぶ」, ḡluyi(VMII 558)~gluyi(VMII 561)~uluyi(VMII 81)「龍」, lašdzēḡ(Xoni 78)~lašdzē(xue 16)~lašdzēḡ(Xoni 396)「麝香(ジャコウ)」, manda-(MI 142)~mānda-(B 37)~māndā-(VMII 469)~menada-(VMII 470)(manta-)「掘る」, monḡuol(Br 33)~monḡuol(XM 323)~monḡuoli(xue 1)(mongghol)「モンゴル」, mošḡē-(A 12)~mošḡē-(A 43)~mōšḡē-(A 30)(mux/shgi-)「曲げる」, ndēra-(XM 257)~ndera-(MI 99)~dēra-(XM 156)(ntiraa-)「寝る」, ndērie(VMII 445)~ndiere(VMII 547)~derie(VMII 822)(ndiree)「ここ」, ntsiodluo-(XM 93)~tsüodlo-(VMII 167)~šdodluo-(F 8)~šdodlo-(VMII 181)(nqorlo-)「供える」, ṅguru-(Sch 13)~ṅgurū-(W 6)~ṅguruo-(MII 36)~nggurul-(MII 27)(ngguroo-)「転がす」, pudzi-(VMII 51)~pudzie-(SII 2)~pudie-(F 23)(pudee-)「くすぶる」, puosḡuo-(XM 97)~posḡuo-(Br 7)~buosḡuo-(SN 21)~(posgho, bos(il)gha-)「建てる」, riyäre(VMII 205)~riyāri(VMII 227)~riyar(VMII 204)~yāri(xue 17)「夏」, särgu(Xoni 197)~sergu(Xoni 269)~sergu(SN 9)(sargu)「太陽側」, sēnoḡder(VMII 288)~sēnogder(VMII 291)~sēnoḡderē(VMII 304)「宝瓶」, sēr(XIII 11)~sēre(Xoni 143)~ser(MIV 53)(seer)「お金」, šdoro(Xoni 447)~šdoruo(MIV 63)~šdōro(VMII 70)(tudor)「中」, sgē-(XM 4)~sge-(XN 5)~sgie-(Xoni 293)~sgiē(VMII 606)~šḡē-(VMII 129)(sge-)「見る」, sēma(VMII 318)~šēma(VMII 321)~smadē(Xoni 59)「低地」, sōla(xoni 220)~sula(XM 146)~suli(A 28)~sul(A 14)(suul)「尾」, šduod(Xoni 38)~šduodē(Xoni 37)~šdodē(A 63)「高地」, tašdiä(xue 19)~tašdia(XM 302)~tašdzia(XM 300)「死体を燃やした灰」, tiaḡ(B 15)~tiag(VMII 816)~tieḡ(VMII 788)「棒」, tiengēr(VMII 28)~tiengēr(VMII 29)~tiengere(VMII 271)~tienggerē(XM 164)(tingere)「天」, tolḡue(MI 110)~tolḡue(A 4)~tolgue(VMII 13)(tolghoi)「頭」, toru(A 70)~turo(VMII 751)~turu(VMII 55)「頭」, tsiädē-(XM 101)~tsiadē-(XM 107)~tsiedē-(MI 30)(qadi-)「満腹する」, yile(MIV 17)~yilē(XM 294)~yili(XM 310)(ili)「全部」

註

- (1) この資料は Schröder が1948年11月25日から1949年6月30日にかけて、青海省の互助の沙堂川の甘家堡で当時67歳の Tuo Ifula (朶先生)の助けを借りて、1903年 mula-xonitsi-pun 生まれの娘婿の Guänbo-sdzia から採録したものである。1961年7月27日付けの Róna-tas あての Schröder の手紙には、この二人は Narin guor と Xalči gol の中間の方言を話し、二人とも Narin guor と Xalči gol から馬で一、二時間の所に住んでおり、お互いに一時間から一時間半離れていると記されている (Róna-tas (1966:192 註1))。

土族語の方言は大きく互助方言と民和方言に分かれ、互助方言はさらに Xalči gol, Narin guor (Narin gol), Fulan nura に分けられるとされている (魯長壽 (1986:60) では互助方言を東溝、大通、五十の三方言に分けている)。Tuo Ifula と Guänbo-sdzia の言語形成期を過ごした場所が違うので、いま問題にしている資料 (VMI, II) の下位方言名を地域名で表現することはできない。

『土漢対照詞彙』(東溝方言)で au で表記されている語 (DMF (Narin guor 方言)では $\bar{u}$ に対応する)は、VMI, II では o または $\bar{o}$ に対応する。一方『土漢対照詞彙』で uu で表記されている語は VMI, II では iu, u に対応する場合と o, $\bar{o}$ に対応する場合とある。また『土漢対照詞彙』で oo で表記されている語は VMI, II では o, $\bar{o}$, uo に対応する。この関係を Xalči gol 方言の例も付け加えて図示すると次のようになる。

	東溝方言 『土漢対照詞彙』	Xalči gol 方言 Тодаева	VMI, II	Narin guor 方言 DMF
a 類	uu	$\bar{y}$	o, $\bar{o}$, iu, u, (uo)	$\bar{u}$
b 類	au	$\bar{y}$	o, $\bar{o}$, (uo)	$\bar{u}$
c 類	oo	$\bar{o}$	o, $\bar{o}$, uo	$\bar{o}$, uo
d 類	ee	$\bar{e}$, ie, i $\bar{e}$	e, $\bar{e}$, ie	$\bar{e}$, ie, i $\bar{e}$
e 類	ai	$\bar{e}$	e, $\bar{e}$, e, ä	$\bar{e}$

VMI, II の o, $\bar{o}$ だけ見ると、a, b, c 類のどれに対応する母音かわからないけれども、b 類に対応する母音には iu, u は現れないし、uo も極めて稀にしか現れないという特徴がある。Xalči gol 方言では a 類と b 類とが区別されないし、d 類と、e 類とが区別されないことがある。VMI, II においてもよく似た特徴が見られるが、Xalči gol 方言ほどではない。a 類には iu, u が現れるが b 類には現れないから、一応区別があるといえる。e 類は $\bar{e}$ がもっとも普通の母音であるから d 類と e 類も一応区別がある。VMI, II の特徴は b 類と c 類との区別が非常に曖昧だという点である。c 類には uo が頻繁に現れるが、b 類には稀にしか現れないという点がわずかに両者を区別する特徴である。VMI, II の特徴は uo, ie のような上昇二重母音が他方言より頻繁に現れるという点にも認められる。

子音については Xalči gol 方言と VMI, II は音節末の l が保たれているのに対し、Narin guor 方言では r に変化している。形態素の面での三方言の違いとしては次のようなものがある。

	Xalči gol 方言	VMI, II	Narin guor 方言
A 位 格	-pa	-r $\bar{e}$	-re
形動詞過去	-can	-dzan	-dzan
仮定副動詞	-ca	-dza	-dza
B 造 格	-la	-la	-ra
三人称命令	-(λ ax)re	-lag $\bar{e}$	-ragi

A については VMI, II は Narin guor 方言に近く、B については VMI, II は Xalči gol 方言に近い。

VMI, II が Xalči gol 方言と Narin guor 方言の中間的な方言であるというのは、以上のような点を指

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

しているものと思われる。

- (2) GRにある鼻母音の表記は、VMI, IIでは省略されている。またGRの *tši*, *dzi*, *ši* はVMI, IIでは *tsi*, *dzi* *si* と表記されている。出版されたのはVMI, IIのほうがGRより早い、手書きの原稿はおそらくGRと同じように表記していたのではないと思われる。

GRでは *f* 以外に *ff* があるが、VMI, IIには *f* しかない。GRには *ie* ~ *ie* の自由交替がたくさん存在するが、VMI, IIには *ie* の表記は二例しかない。

- (3) 奇数ページはドイツ語訳であるため、土族語のテキストは偶数ページだけである。
 (4) *i/yadaa-* の場合は *idaa-* または *yadaa-* という意味であって、*idaa-* または *iadaa-* の意味ではない。
 (5) スモールキャピタルを普通の小文字に置き換える。aspiration と鼻音化の記号は省略する。
 (6) 『土漢対照詞彙』では *g* が軟口蓋音、*gh* が口蓋垂音を表す文字であるが、音節末では次の例のように、*g* だけが用いられている。

Schröder	Тодаева	DMF	『土族語簡誌』	『土漢対照詞彙』	
<i>tsidziḡ</i>	чича5	<i>tsidziaḡ</i>	<i>tcidzac</i>	<i>qijig</i>	花
<i>bulaḡ</i>	була5	<i>bulaḡ</i>	<i>bulac</i>	<i>bulag</i>	泉
-	да5сера-	<i>daḡserā-</i>	<i>dacsəraa-</i>	<i>tagsiraa-</i>	断つ

もっとも次のように、軟口蓋音、口蓋垂音の対応は方言間で違っていることもある。

Schröder	Тодаева	DMF	『土族語簡誌』	『土漢対照詞彙』	
<i>pudziḡ</i>	пуджиг	<i>pudzig</i>	<i>pudzig</i>	<i>puj/qig</i>	文字
-	будаг	<i>budig</i>	<i>budag</i>	<i>budig</i>	染料

- (7) 『土漢対照詞彙』には *geril* のみ、『土族語簡誌』には *[gerə]* のみ、DMFには *geri* のみが記載されている。『土漢語詞彙』には *gere* 〈形〉、*gerɜl* 〈名〉と両方が記載されている。VMI, IIでは *geri roḡdē* (Xoni 271), *geril roḡdē* (Xoni 195) のような現れ方をするので、一方が形容詞、他方が名詞という違いではない。
- (8) 学名: *Jeniperus rigida* Sieb. et Zucc.、和名: ネズ (ネズミサシ)、一般名: 杜松 (トショウ)、中国名: 柏樹、チベット名: 巴珠木、チベット文後形: *shug pa*。
- (9) 出現頻度以外に考えられることは、例えば、「家」は本来は子音語幹 *ger* であるが、語末に *i* が添加して *geri* となりうる。一方「北側」は *geril* が本来の形であり、語末の *l* が脱落して *geri* になりうる。また、音節末の *d* は *r* になりうるが、音節末の *r* は *d* にはなりえないから、「蓮」は本来 *wadma* であり、*warma* ともなりうる。一方「秤」は本来 *warma* であって、*wadma* とはなりえない。
- (10) 同音異義語か否かは、方言によって違いがある。例えば、「毛」と「水」は同音異義語になる方言と最小対立をなす方言とがある。

Тодаева	DMF	『土族語簡誌』	『土漢対照詞彙』	
сдзе (фудзе)	<i>fudze</i>	<i>sdzu</i>	<i>szu</i>	毛
сдзу (фудзу)	<i>fudzu</i>	<i>sdzu</i>	<i>szu</i>	水

- (11) 短母音を舌の前後、高低によって分類すると、ほぼ次のようになる。

i	ü	u
e	ë	y
ɛ		o
ä		a

- (12) 中国の文献では、閉鎖音及び破擦音の二系列について有気音／無気音という表現をしていることが多いが、これは中国語（漢語）における音素対立の概念を導入したもののように思われる。しかもこの傾向は土族語に限らず、中国の少数民族の言語の解釈によく見られるものである。有気音／無気音というからには、Voice Onset Time (VOT) はどちらもプラスでなければならないが、他の蒙古系の言語から判断して、土族語の場合は、おそらく一方はマイナスになるのではなかろうか。つまり、この二系列は（あまり aspiration の強くない）無声音／aspiration は伴わないが無声化の on glide を伴うことのある有声音ないしは無声化した有声音（あるいは fortis/lenis）とすべきであろう。本稿ではこのことを承知したうえで無声音／有声音と表現した。

ds は従って、無声化の on glide を伴った有声音であると考えられる。これを仮に半有声音と表しておくことにする。

- (13) i は主観範疇、a は客観範疇を表す。詳細は Činggeltei (1981) を参照のこと。
- (14) 命令形 φ、意志形 -ya、終止形 -m、-na 等の後に続く。
- (15) 本来長母音か短母音からからないが、感嘆詞であるから、長母音と見なした。
- (16) Schröder (1959:11) には、ドイツ語の有名な『菩提樹』の歌にたとえて Am brunnen vor dem Tore da steht ein Lindbaum を Ambru nenvordemtore dasteht einlin dembaum のように前の語の後半と次の語の前半をくっつけたような発音をすることがよくあったと記されている。長短が曖昧になって理由の一つはここにあるのではないかと思われる。しかし第一音節に ā が現れることは稀であるのに、ō は稀ではないこと、逆に第二音節以下には ā は頻繁に現れるのに、ō は稀であることの理由はよくわからない。ī、ū、ē という長母音は音節の位置に関わらず稀にしか出現しない。
- (17) 位格と与位格の違いについては角道 (1989a) を参照のこと。
- (18) 単数というのは、Тодаева (1960)、照那斯圖 (1981) 等の記述であり、正確な表現ではない。この接尾辞は動詞の終止形、命令形、意志形、文末助詞、否定助詞以外のほとんどの品詞に付加し様々な機能を有する。複数の概念を表す語にも付きうる。名詞に限っても、初出、限定、話者交替、主題交替、確認、反復等の機能を有する。詳細は角道 (1989b) を参照のこと。
- (19) 「飲む」には udzi-, utsi-, u-, wu- 等のバリエーションがあり、VMI では次のような現れ方をする。

	udzi-	utsi-	u-	wu-
分離副動詞	udziānō (XM 174)			
分離副動詞			uwāno	
分離副動詞	udziano (XM 185)	utsiano (XM 283)		
結合副動詞	udzi (XM 172)	utsi (XM 196)		
仮定副動詞	udzidza (MII 18)			
目的副動詞	udzila (XM 175)		ula (B 17)	
終止形過去	udzidzia (XM 94)			
形動詞過去	udzidzamba (XM 173)			
形動詞未来	udzigu (XM 170)		ugu (XM 221)	
意 志			uya (B 26)	wuya (B 43)

- (20) Róna-tas (1962:285) に指摘されているように、VMI において音節末の l が r になっている語であるが、l の形も出現する。

土族語（モンゴル語）の一方言の自由交替

『土漢対照詞彙』にも xilgoo-、xirgoo- 両方の形が掲載されているし、『土族語詞彙』にも cilgo:-, cirgo:- 両方の形が掲載されていることから判断して、このバリエーションは互助方言に広く観察されるものであろう。

- (21) VMI に現れる語末に l を持った形と意味的に対応するのは、『土族語詞彙』の l を伴わない barga という語である。この項目には、満州語 barkiyambi からの借用という記載がある。この満州語の形は土族語ときれいに対応しない。l の有無が geril ~ geri と同じ性質のものかどうかはわからない。
- (22) rēgdzēm nguombō saŋ (Tib. rigs gsum mgon po sangs) 密宗事部三怙主、即ち佛部文殊の名前の一部に現れる語。

参考文献

- 哈斯巴特爾、他編（1985）『土族語詞彙』内蒙古人民出版社
- 魯長壽（1986）「大力試行土族文字提高文化水準」中国民族語言学会編『中国民族語言論文集』四川民族出版社 58-66
- 呂光天（1981）「青海土族語の語言與来源關係」呂光天著『北方民族原始社会形態的研究』寧夏人民出版社 50 7-522（初出は1955年第三輯『中国民族問題研究集刊』）
- 照那斯圖（1981）『土族語簡誌』民族出版社
- 照那斯圖、李克郁（1982）「土族語民和方言概説」《民族語文》編輯部編『民族語文研究文集』青海民族出版社 458-487
- 席元麟（1986）「土族語音位系統」中国民族語言学会編『中国民族語言論文集』 395-405
- 互助土族自治县民族語文辯（1982）『土漢対照詞彙』互助土族自治县
- 服部四郎（1959）「蒙古祖語の母音の長さ」『言語研究』第36号 40-54
- 樋口康一（1983）「チベット語と土族語の言語接触について」『チベット文化の総合的研究』（昭和57年度特定研究報告書） 76-84
- 角道正佳（1987）「土族語の下位方言」『大阪外国語大学學報』第75-1.2号 49-63
- 角道正佳（1988a）「Geser rēdzia-wu の言語 —自由交替—」『大阪外国語大学學報』第76-1.2号 25-50
- 角道正佳（1988b）「Geser rēdzia-wu の言語 —分布—」『大阪外国語大学學報』第77号 23-44
- 角道正佳（1989a）「モンゴル語（土族語）の位格と与位格の用法について」『日本モンゴル学会紀要』No19 30-39
- 角道正佳（1989b）「土族語（モンゴル語）における接尾辞 -ngge について」『大阪外国語大学論集』第1号 1-27
- 栗林 均（1989）「モンゴル語族と近隣の諸言語との言語接触 —中国青海省、甘肅省の「孤立的」モンゴル系諸言語を中心に—」早稲田大学北方言語・文化研究会 『民族接触 —北の視点から—』六興印刷 273-289
- 斎藤純男（1983）「モンゴル語の音韻体系」『言語・文化研究』創刊号 東京外国語大学大学院国語研究科言語・文化研究研究会 9-17
- Činggeltei (1981) 'Mongrȳor kele deki tusalaqu üyile üge yin tuqai,' *Öbür mongȳol un yeke surȳaruli yin mongȳol kele bičig sudulqu ȳaȳar un kele bičig ün erdem sinȳilgen ü ügüel ün tegübiri*, dörbedüger debter, 35-42.
- Hattori Shirō (1972) 'Initial Plosives of Proto-Mongolian and Their Later Developments —With Two Additional Remarks—,' 『言語の科学』第3号 117-136
- Mostaert, A et A. de Smedt (1929-30) 'Le dialecte Monguor parlé par les mongoles du Kansou

- occidental, I^e partie, Phonétique,' *Abthropos* XXIV, 145-165, 801-815, XXV, 657-669, 961-973.
- Róna-tas, A. (1960) 'Remarks on the Phonology of the Monguor Language,' *Acta Orientalia Scientiarum Hungaricae* X/3, 263-290.
- Róna-tas, A. (1962) 'On some Finals of the Monguor Language,' *Acta Orientalia Scientiarum Hungaricae* XIV, 283-190.
- Róna-tas, A. (1966) *Tibet-Mongolica, The Tibetan Loanwords of Monguor and the Development of the Archaic Tibetan Dialects*, Mouton & Co., The Hague.
- Schröder, Dominik (1959) *Aus die Volksdichtung der Monguor*, 1. Teil. Otto Harrassowitz, Wiesbaden. (VM I)
- Schröder, Dominik (1964) 'Der Dialekt der Monguor,' *Handbuch der Orientalistik*, Bd. 5, Absch. 2, *Mongolistik*, Leiden/Köln, E. J. Brill, 143-158.
- Schröder, Dominik (1970) *Aus die Volksdichtung der Monguor*, 2. Teil, Otto Harrassowitz, Wiesbaden. (VM II)
- Schröder, Dominik (1980) *Geser rëdzia-uu*, Dominik Schröders nachgelassene Monguor (Tujen)-Version des Geser Epos aus Amdo, Otto Harrassowitz, Wiesbaden. (GR)
- de Smedt, A. et A. Mostaert (1933) *Le dialecte Monguor parlé par les mongoles du Kansou occidental*, III^e partie, Dictionnaire Monguor-Français, Imprimerie de l'Université Catholique, Pei-p'ing. (DMF)
- de Smedt, A. et A. Mostaert (1964) *Le dialecte Monguor parlé par les mongoles du Kansou occidental*, II^e partie, Grammaire, Mouton & Co., The Hague.
- Тодаева Б. Х. (1960) Монгольский языки и диалекты китаия, Москва.
- Тодаева Б. Х. (1973) Монгорский язык, издательство «наука» главная редакция восточны литература, Москва.

(1990. 5. 8 受理)